

業界天気図

エレテクス、発電機とLPガス容器を一体化 建設技術展示会で実機公開

生産設備メーカーのエレテクス(長崎県佐世保市、山口正利社長)が開発したフルパッケージ型LPガス非常用発電機「EB-1000」がこのほど、国土交通省の建設技術展示館(千葉県松戸市)の展示品に採用された。展示館は、同省のNETIS(ネティス)新技術情報提供システム)認証を受けた優れた建設技術を公開する施設。2日のリニューアルオープンに合わせ、防災・減災技術コーナーの展示品に加わった。令和4年11月まで2年間展示される。

EB-1000の最大の特長は、LPガス発電機や制御機器、LPガス容器を一つの筐体(きょうたい)に収納したこと。設置場所の省スペース化が図れるだけでなく、1m騒音値で75dBの低騒音運転が可能になった。夜間や住宅地での設置・使用に適している。発電容量は1kVA。筐体内の30kg容器2本で72時間以上の運転が可能となっている。

容器の収納室と火気となる発電機は、特許技術の不燃性隔壁で遮断し安全を確保している。

エレテクスが販売ターゲットとして想定するのは、公的機関が設置する屋外の監視カメラや観測機器などの非常用電源だとしており、病院や老健施設、避難所となる学校などの非常用電源としてのニーズも有望視している。

山口社長は「非常用発電機の用途にはさまざまなものがある。われわれ自身がまだ気づかないニーズがあると思うので、今後模索していきたい」と話す。